

2024 年 11 月 12 日

報道機関 各位

多文化社会学部 10 周年記念連続講演

「多文化社会的思考とグローバル日本研究の課題—アジアからみた日本, 日本からみたアジア」 第 2 回「多文化アジアの可能性：フィリピンと日本から考える」

多文化社会学部は昨年度に設立 10 周年を迎えました。学部発足から 10 年が経過した現在、世界は急速に不安定さを増し、潜在的リスクへの不安が従来の世界観を揺るがしています。

このような状況において、多文化社会(学)的な幅広い視野と思考、人類の共生を追求する学部の視点は、この 10 年でその重要性を一層増しています。そこで、多文化社会学部と多文化社会研究科が主催となり、「アジアからみた日本、日本からみたアジア」をテーマに多文化社会学部 10 周年記念連続講演を開催し、招聘者による講演や発題を通じて、多文化社会学におけるグローバルおよび日本研究の課題について討論します。

第 2 回となる今回の講演では、文化人類学及びフィリピン研究を専門分野とされる京都大学名誉教授の 清水 展 氏 をお招きし、「多文化アジアの可能性：フィリピンと日本から考える」についてご講演いただきます。学内外の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【開催日時等】

●第 2 回：令和 6 年 11 月 14 日（木）

〔時 間〕 16：10－17：40

〔会 場〕 長崎大学文教キャンパス総合教育研究棟 3 階 31 講義室（別紙参照）

〔講演者〕 京都大学名誉教授 清水 展

「多文化アジアの可能性：フィリピンと日本から考える」

■主 催：長崎大学多文化社会学部

■参加費：無料（どなたでもご自由にご参加いただけます。）

■事前申込不要

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学多文化・教育学事務課 総務第一係

TEL:095-819-2934

e-mail:hss_soumu@ml.nagasaki-u.ac.jp

【参考情報】

- ・ 多文化社会学部ホームページ

<https://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/>



- ・ 長崎大学多文化社会学部 10 周年記念連続講演

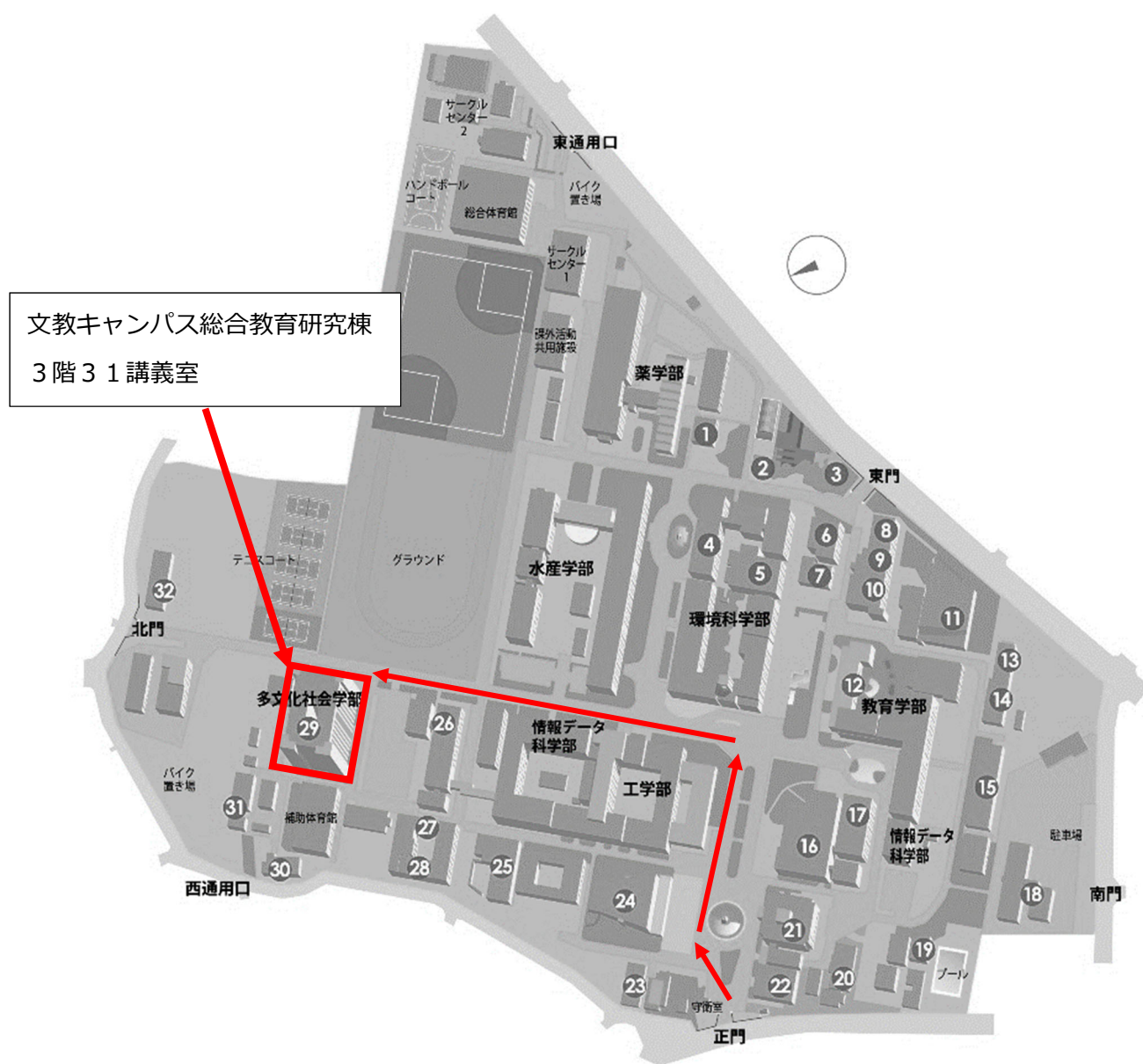
<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/event/event1643.html>



- ・ 京都大学東南アジア地域研究研究所（スタッフ紹介：清水 展）

<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/staff/shimizu-hiromu/>





多文化社会学的思考と
グローバル・日本研究の課題



多文化社会学部10周年記念リレー講演

一般参加者
入場
無料
申込不要

第一回 2024 10.3 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 文教スカイホール
「平和社会学の創生—
共生と平和へのグローバルな視点」
[講演者] 名古屋大学名誉教授 西原 和久

第二回 11.14 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 31講義室
総合教育研究棟3階
「多文化アジアの可能性:
フィリピンと日本から考える」
[講演者] 京都大学名誉教授 清水 展

第三回 12.6 金曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 31講義室
総合教育研究棟3階
「ブタとコメからみた食文化
-東アジア人類史という視点から-」
[講演者] 国立歴史民俗博物館館長 西谷 大

第四回 12.12 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 文教スカイホール
「近世日中文化交流史と長崎
-「東アジア学」研究の発展を兼ねて-」
[講演者] 東呉大学講座教授/中国文化大学前学長 徐 興慶
討論: 長崎大学名誉教授 佐久間 正

第五回 12.14 土曜日
[時間] 13:00-15:30
[会場] 文教スカイホール
「東アジアの平和と朝鮮半島」シンポジウム
[講演者] 韓神大学校教授 李 起豪
北韓大学校教授 具 甲佑

第六回 2025 1.9 木曜日
[時間] 16:10-17:40
[会場] 文教スカイホール
「多文化的視点から見る
グローバル化チャイナ」
[講演者] シンガポール南洋理工大學学長補佐・教授 劉 宏
討論: 武蔵野美術大学造形学院教授 廖 赤陽



長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

主催: 長崎大学多文化社会学部・大学院多文化社会学研究科

多文化社会的思考とグローバル・日本研究の課題 —アジアからみた日本, 日本からみたアジア—

多文化社会学部発足から10年が経過した現在、世界は不安定化と変動の激しさを増し、潜在的リスクへの不安が従来の世界観を変えようとしています。多文化社会(学)的な思考の幅広い視野と人類の共生する姿を突き詰める、この学部の見点はこの10年で、さらに重要性を増しています。多文化社会学部および多文化社会研究科主催のシンポジウム、講演会の招聘者を中心に「アジアからみた日本, 日本からみたアジア」をテーマに講演、発題いただき、多文化社会学としてのグローバル・日本研究の課題について討論します。

講演者、討論者のプロフィール

「平和社会学の創生—共生と平和へのグローバルな視点」

第一回: 10月3日 講演

西原 和久 (にしはら かずひさ)



名古屋大学名誉教授、成城大学名誉教授、南京大学客員教授。専門は社会学理論、現象学的社会学、国際社会学、平和社会学研究。日本社会学理論学会会長、国際社会学科学団体連盟副会長、日本社会史学会などの理事を歴任。現日中社会学会会長。著書に『トランスナショナリズム論序説—移民・沖縄・国家』(新泉社2018)、『現代国際社会学のフロンティア—アジア太平洋の越境者をめぐるトランスナショナル社会学』(東信堂2020)、『グローバル化する社会と意識のイノベーション—国際社会学と歴史社会学の思想的交差』(東信堂2021)など多数。

「近世日中文化交流史と長崎-「東アジア学」研究の発展を兼ねて-」

第四回: 12月12日 講演

徐 興慶 (じょ こうけい)



【歴史学・比較思想史】九州大学大学院文学博士(1992)、関西大学文化交渉学論文博士(2012)。専門は朱舜水研究、近世日中文化交流史、近代日中思想交流史。台湾大学日本語文学科教授/日本語文庫研究所所長。台湾中国文化大学学長を経て現在、東吳大学講座教授。台湾大学教授時代の2013年に同大学に日本研究センターを設立する。主著に『近代日中思想交流史の研究』(朋友出版、2004)、『朱舜水と東アジア文化傳播の世界』(東亞文明研究叢書78(台大出版センター、2008)、『東アジアの覚醒—近代日中知識人の自他認識』(研文出版、2014)など多数。

佐久間 正 (さくまだし)



【日本思想史】東北大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は日本思想史(徳川思想・環境思想)。長崎大学名誉教授。1996年9月から1年間、カイロ大学文学部日本語日本文学科長(客員教授)。2006年に長崎大学環境科学部長、長崎大学理事を経て2014年に多文化社会学部初代学部長。日本思想史学会評議員などを歴任。主著に『徳川日本の思想形成と儒教』(ぺりかん社(2007))、『家業道徳論』の世界-近世思想史における普遍と特殊- (ぺりかん社(1997) など多数。

「多文化アジアの可能性: フィリピンと日本から考える」

第二回: 11月14日 講演

清水展 (しみず ひろむ)



京都大学名誉教授、社会学博士。文化人類学、東南アジア研究。東京大学助手、九州大学教養部助教授、同大学大学院比較社会文化研究院教授、京都大学東南アジア研究所教授・所長、関西大学特任教授などを歴任。主著として『文化のなかの政治: フィリピン「二月」革命(1991)の物語』、『草の根グローバル化』(2013)、『アエタ 灰のなかの未来: 大噴火と創造的復興の写真民族誌』(2024)、などがある。第11回日本文化人類学会賞(2016)、第107回学士院賞(2017)などを受賞。

「東アジアの平和と朝鮮半島」シンポジウム

第五回: 12月14日 講演

李 起豪 (イ・キホ)



韓国延世大学校政治学博士。専門は、東アジア市民社会と平和運動。韓国平和フォーラム事務局長を経て韓国韓信大学校平和・公共性センター長、教授。2003年から2006年、北朝鮮と韓国の平和と協力をテーマに韓国平和フォーラム事務局長を務めたほか、盧武鉉政権時代、北東アジア構想大統領委員会の諮問委員を担当。RECNAポリシーペーパーNo.15『これからの軍縮教育: 日韓の視点から』(2022)。

具 甲佑 (グ・カフ)



ソウル大学校政治学博士。慶南大学北韓大学院大学助教授を経て2010年から北韓大学院大学教授。専門は平和学、南北朝鮮政治。著書に『朝鮮半島国際関係史の再認識』(共著、2021)、『安保の論理、平和の論理』(共著、2021)、『批判的平和研究と朝鮮半島』(単著、2007)ほか多数。

「ブタとコメからみた食文化-東アジア人類史という視点から-」

第三回: 12月6日 講演

西谷 大 (にしに まさる)



大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館館長。文学博士考古学、東アジア人類史研究。国立歴史民俗博物館研究部准教授、同館研究部教授、総合研究大学院大学教授(併任)を経て2020年より現職。主著として『食べ物と自然の秘密』(2003)、『多民族の住む谷間の民族誌 生業と市からみた環境利用と市場メカニズムの生起』(2011)、『写真紀行 雲のうへの千枝ダム 中国雲南・大欄田地帯』(2017)などがある。

「多文化的視点から見るグローバル化チャイナ」

第六回: 1月9日 講演

劉 宏 (りゅう ほん)



廈門大学、復旦大学を卒業。シンガポール国立大学人文社会科学学部を経て2000年に終身在職。2006年から2010年、英マンチェスター大学東アジア研究の主任教授および中国研究センターの初代所長。南洋理工大学の人文社会科学部学部長、同大学社会科学部学部長を経て、現在同大学副学長。専門は政治学。主な研究分野は中国とグローバル化、中国と東南アジアの関係、一帯一路、公共外交、海外華人、公共政策など。主な著書に『The Political Economy of Transnational Governance』(Routledge, 2022) など。

廖 赤陽 (りょう せきやう)



【歴史・思想】武蔵野美術大学教授。専門は、東アジアの歴史社会、華僑人史。国立華僑大学で助教、講師、東京大学講師などを経て現職。日本華人教授会代表や全日本華僑華人連合会副会長も歴任。関連著書は『国境を越えて: 留学生と新華僑』(中国語)、『大潮のうねり: 改革開放と日本留学』(中国語)、『市場・社会・国家の間: 東アジア開講場の 華商とアジア地域ネットワーク』(中国語)、『長崎華商と東アジア交易ネットワークの形成』(日本語)などがある。

お問い合わせ先

長崎大学多文化社会学部 事務室

TEL: 095-819-2934 / FAX: 095-819-2912 E-mail: hss_soumu@ml.nagasaki-u.ac.jp